

環境大臣表彰を受賞

里海づくり
研究会議 11月にはシン・ポ主催

NPO法人「里海づくり研究会議」がこのほど、瀬戸内海環境保全功労者表彰で環境大臣表彰を受賞した。NPO法人となる前身組織での活動に加え、参加メンバーそれぞれが多方面にわたる功績が高く評価され、設立1年半という異例の早さで大臣表彰となった。

功績理由は、漁業現場や関連業界、行政上の現実的な課題、問題の解決を目指し「里海」の概念を掲げたこと。特に岡山県倉敷市(大島地先)に

おいて、アマチ場環境調査と造成技術指針の策定など、実務・実践的な調査研究を行ったことで、瀬戸内海の里海づくりに貢献したことが功績に挙げられている。

また、参加メンバー個人でも過去20年以上にわたるさまざまな活動を展開。水島港のしゅんせつ時に地元漁業への影響を研究したほか、カキ殻利用による底質改善、各種のガイドライン設定など目に見える形での貢献が多い。



参加メンバーは、奥田節夫理事長(京都大学名誉教授)を筆頭に、「里海」を定義付けした柳哲雄副理事長……表彰状を手にする奥田理事長(左)と田中事務局長

(九州大学応用力学研究所教授)、瀬戸内海の閉鎖性海域研究で知られる松田治理事(広島大学名誉教授)、アイテアマンとして有名な鷲尾圭司顧問(水産大学校理事長)など、そうそうたる研究者。今回の表彰について奥田理事長は「組織としても『現場主義』で取り組んできた。形になっていないことが大きいのではないかと分析。田中事務局長は「組織として初めての表彰となったが、これを機に里海概念を広めていきたい」と語る。

この一環として、11月6日にはNPOが主催して岡山でシンポジウムも開催予定。兵庫や広島の東西隣県に新庄村、香川県と南北の切り口も加えるだけでなく、消費者も巻き込んで里山、森・川・海のつながりといった観点から多角的に議論を展開する。